

さつまいも

- さつまいもは、本県の主要な作物として生産され、生食・加工食品用、アルコール用（焼酎用）、でん粉用等に幅広く利用。
- 当県では生食・加工食品用よりも、焼酎用、でん粉用の割合が多い。
- でん粉用、焼酎用としては、「基腐病」への耐性のある「こないしん」「みちしずく」など、品種改良も進んでいる。

生食・加工食品用



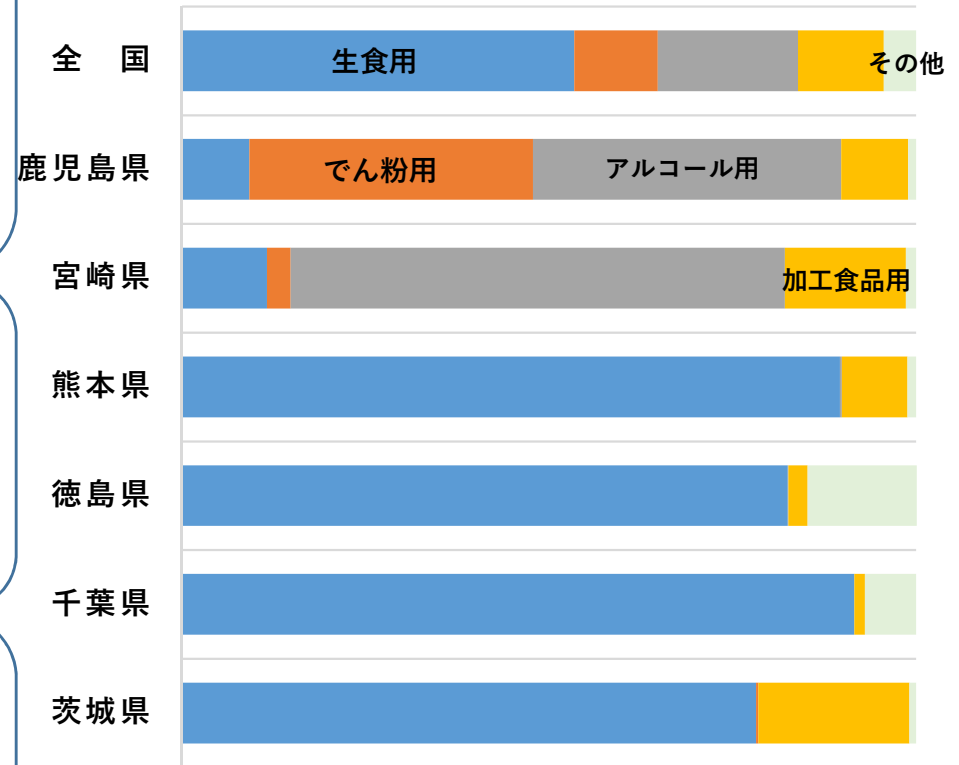
アルコール（焼酎）用



でん粉用



かんしょ消費量の全国・都道府県別用途別仕向け割合
(令和3年産・概算)



資料：農林水産省農産局地域作物課「いも・でん粉に関する資料」
 注1 全国の作付面積のおおむね8割を占めるまでの都道府県を掲載した。
 2 その他は種子用、輸出用、飼料用等である。

○ サツマイモ基腐病防除対策

もどくされびょう サツマイモ基腐病のまん延を防ぐために

基腐病とは

- ・病原菌 糸状菌(カビの一種)
- ・寄主植物 主にさつまいも(ヒルガオ科のみ)
- ・症状 地際の茎が黒変し、茎葉は黄色や紫色に変色して、次第にしおれる。茎葉が繁茂する時期には、ツルが黒色から黒褐色に変色し、地上部が枯死する。発病株の芋は、主になり首側から腐敗する。



初期発病株

農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(012020)令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」引用

まん延を防ぐ3つのポイント

①基腐病菌を持ち込まない

- ・健全な種いも、苗の確保
- ・種いも、苗の適切な消毒
- ・ほ場で使った用具等の洗浄

地域ぐるみで、取り組もう



輪作も考えよう



②基腐病菌を増やさない

- ・ほ場の排水対策
- ・発病株の早期発見
- ・発病株の抜き取り、持ち出し
- ・初期防除の徹底

③基腐病菌を残さない

- ・残さの持ち出し
- ・耕うんによる残さの分解促進
- ・適切な土壤消毒
- ・たい肥等の有機物施用

3つのポイントを合わせて行うことが大切です。

怪しい株を見つけたら、最寄りの病害虫防除所・JA等に相談ください。(裏面には植え付けから栽培・収穫までの対策を記載しています。)

農研機構
九州農政局



サツマイモ基腐病のまん延・被害を抑えるために

次作に向けて重要な対策

基腐病のまん延や次作の被害を抑えるためには、収穫後から植え付け前までに以下の対策をもれなく行うことが重要です。

収穫後から植え付け前編



○ 基腐病菌を残さない対策

- ①ほ場の残さは、ほ場外に持ち出して適切に処分
- ②ほ場にわずかに残った残さは、気温が高いうちに耕うんにより分解を促進
- ③適正な地温(15℃以上)と水分が確保できる時期に、残さ除去後、被覆して土壤消毒を実施
- ④完熟たい肥などの有機物は、土壤消毒後、微生物を回復させるために適量を施用

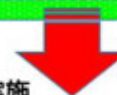
○ 基腐病菌を増やさない対策

- ①ほ場の排水対策を促進するため、以下を実施
 - ・ほ場の排水機能、ほ場外排水路の点検
 - ・明きよの設置、サブソイラー等による排水改善
 - ・ほ場の均平化
- ②有機物施用による透水性改善



○ 基腐病菌を持ち込まない対策

- ①種いもや苗からのまん延を防ぐため、以下を実施
 - ・種いもは、基腐病発生ほ場からは採取しない
 - ・種いもや苗を購入する場合は、基腐病の発生がないほ場で生産されたことを確認のうえ、植え付け前に必ず消毒
 - ・自家採取苗を育成する場合は、基腐病の発生がないほ場で採取した種いもを用い、種いもを選別のうえ消毒し、土壤消毒した苗床に伏せ込む
 - ・育苗期に発病を確認したら、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出して処分
 - ・採苗は、地際部から5cm以上切り上げて行い、採苗当日に苗消毒
- ②基腐病発生ほ場で使った機材・長靴などは全て洗浄



農薬は、使用基準に従って適切に使用してください

詳しい技術の内容が書かれているマニュアル

農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(012020)令和3年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/151859.html

